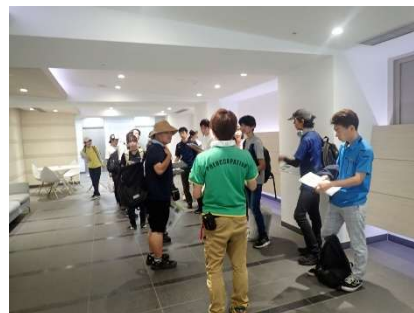


環境保全のボランティア体験講座 2026 第3回講座レポート

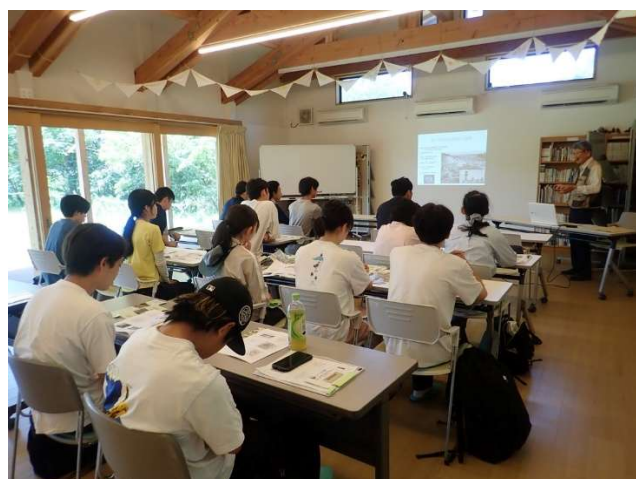
第3回目の講座は7月12日(日)に和泉市にある信太山丘陵里山自然公園と、そこに広がる惣ヶ池湿地での開催です。右の写真は出発前の集合の様子で、この日の受講生は15名。本日のスケジュールの確認と活動時用の班分けをした後、貸切バスに乗り込みました。



信太山丘陵は、弊社(大阪市内)から高速を使って約40分程度で到着する、比較的近場の活動地になります。

ここは生物多様性が高く、絶滅危惧種が多い地域であることから、大阪府の生物多様性ホットスポットAランク(最高ランク)に位置付けられています。

バスが到着後、受講生は左下の写真の信太山丘陵里山自然公園管理棟に入って、まずは今回お世話になるNPO法人信太の森FANクラブの田丸代表(写真右下)のご講演を聞きました。田丸さんからは、この地の歴史や娯楽施設ができそうになった時の市民運動、湿地の保全事業の経緯や団体の設立経緯などをご説明頂き、受講生は静かに耳を傾けていました。





この地についての理解を深めたところで、早速屋外へ出て、午前中は活動地の視察を行いました。
まず公園西エリアでは、田丸さんから樹木管理の方法や、草原へ外来植物が侵入した経緯について説明がありました。

当日は気温が高かったため、右の写真のように説明の途中で日陰へ場所を移すなど、熱中症対策を行いながら視察を進めました。
また、田丸さんにご用意いただいた「見つけた動植物の名前を記録する調査リスト」を使い、受講生たちは紹介される植物の名前をその都度熱心にチェックしていました。



さて、いよいよ惣ヶ池湿地へと足を踏み入れます！柵の入口で、靴裏に外来植物の種などが付着している可能性があるため、専用マットで拭ってから入場します。



こういった細やかな対策をしていないと、貴重な野生動植物種の生息域に外来種が大繁殖！なんてことも考えられます。

さて、まずは食虫植物で大阪府の準絶滅危惧種コモウセンゴケの観察です。
湿地に敷かれた木道の幅が狭い為、見た人は先に進んでいく方法で順番に見て回りました。
ここ数年の雨量が少ないために、生えている株数が減っているようです。



この時はカンカン照りで、湿地中央には木陰がないため強い暑さを感じました。しかし、その暑さを忘れさせるように、左右には見たこともないような植物が生い茂り、さまざまな昆虫が飛び交っています。受講生たちは周囲の自然に目を向けながら、木道を一列になって進んでいきました。



田丸さんの生きものの解説中、受講生は調査リストにチェックしたりメモを取ったりしていました。キノコにも色々な種類がじせいしており、目についたものを次々に説明されます。右下の写真はマンネンタケです。傘の径は最大 15cm にもなり、ニスを塗ったような光沢があるのが特徴です。



左下の写真はクロハナムグリです。低～中山帯に生息する本種は、主に花の蜜や花粉に集まる種類で、一般的なカナブンやハナムグリより少し小型の種類となります。珍しいハラビロトンボも普通に見られました(右下の写真はメス)。受講生たちは、数多く飛び交うトンボや見たこともない植物に興味津々で、湿地ならではの豊かな自然を満喫している様子でした。



左下の写真は、ビニール袋と紙でスズメバチの巣に見立てた球体を木から吊り下げた「スズメバチ避け」です。スズメバチは縄張り意識が強く、すでに他の巣がある場所には近づきにくいという習性を利用したものだそうです。さて、その効果はいかに…？



下の写真は、お年寄りも登りやすい階段の作り方について説明している様子です。



そして湿地の周囲を一周してきた一行は、管理棟へ戻り、昼休憩を取りました。

さて、休憩が終わり午後からは草刈り・低木伐採と階段作りです。

2つの班に別れているので、草刈りを先にする班は後半で階段作りを、階段作りを先にする班は後半で草刈り・低木伐採を行いました。

A 班

下の写真は、カクレミノを伐採している様子です。葉の形が多様で、裂け方や形には個体差があるのが特徴の樹木です。



湿地外周路脇の下草は手鎌で刈り取っていきます。



B 班

まずは、階段の作り方について図面を見ながら説明を受けました。



そして道具の使い方についても学んだあと、手分けして現場まで運びだすことになりました。



A 班

手鎌の使い方についても指導を受け、安全に作業できるよう左手の添え方にも気を配りながら、受講生たちは慎重に作業を進めていました。



一旦刈り取った草はレーキなどを使いブルーシートに乗せて、ある程度集まると集積地に運んでいく方法で作業効率 UP を図りました。



B 班

階段整備地まで散策路を進みます。木陰のおかげで暑さはいくぶん和らぎましたが、それでも厳しい暑さであったことに変わりはありません。皆さん、本当にお疲れさまでした。



階段整備地を上から見た様子です。



実はここでは昨年度の受講生(矢印先)が大活躍！何度か信太山での活動に参加していて、この日も駆けつけてくれたのでした。



A 班

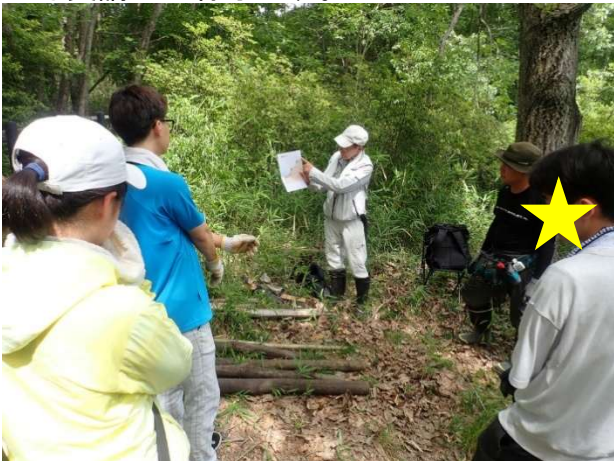
指示のあった樹木数本を残し綺麗になりました！



続いて階段設置作業です。B班の残りを作業予定でしたが、予想以上に早く終わったそうで、別の場所を整備することに。使用する備品や道具類をそちらに運搬している様子です。



運搬を終え、階段作りの手法を静かに聞いている受講生の様子です。



B 班

階段整備箇所は、雨水の流下や人の踏圧によって中央が窪んでいました。そのため、階段を設置するには地面を削る箇所と、盛り土をして高さを調整する箇所が生じます。まずは横木と杭を仮置きし、完成後の階段のイメージを確認しながら作業を進めていきました。

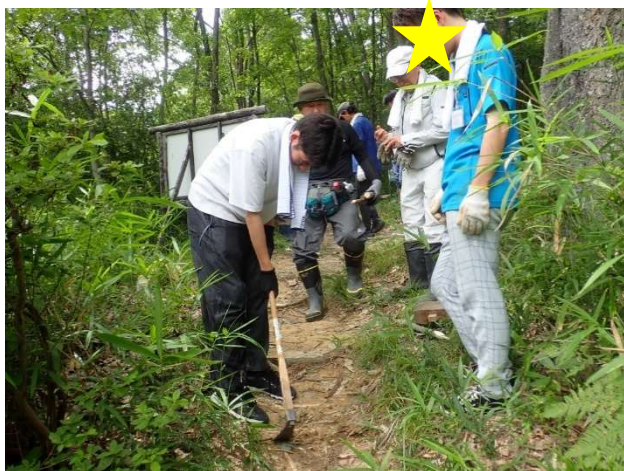


一人が杭を支え、もう一人がカケヤで打ち込むなど、息を合わせながら作業を進めました。



A 班

既設階段の傷んだ横木を、トンガで剥ぎ取っている様子です。このあと、新しく用意した横木を敷いていきます。



受講生 U さんは初めての体験だそうです、なかなかうまくできていましたよ☆



受講生 K さんは自身が所属の団体内で経験があるようで、流石プロ級の手際の良さでした☆



B 班

盛り土用の土をトンガで移植する時の様子です。



階段を完成させたので記念撮影。お茶の間に有名な「Tポーズ」ですね。やり遂げた達成感で満たされ凄く楽しそうです♪



場所を移動して、草刈りと低木の伐採を行うため、鎌の使い方のレクチャーを受けた時の様子です。



A 班

地球外生命体！？受講生が日当たりの良い草花の上にいることが多いササグモというクモの仲間を見つけて持ってきました。何度も見返してしまうほどのインパクトのある姿をしていますね。



階段状にするために水平面を出してならしていく時の様子です。



仕上がった階段の一部で記念撮影☆達成感でいっぱいの笑顔が見られました。



B 班

湿地外周路脇の除草作業です。手分けして刈り取ります。



刈り取りした草本類は、A 班同様にブルーシートに乗せて運搬します。



田丸さんの指示の下、低木の不要な枝の剪定も行いました！



最後は湿地を背景に、現地の方も一緒にみんなでハイ・チーズ☆良い思い出になりましたね！



信太の森 FAN クラブの皆さんにお礼を伝えてお別れした後、受講生は管理棟へ戻り、田丸代表にもご同席いただいてアンケートを記入しました。その後、数名の受講生に感想を發表していただき、参加者全員で一日の学びや気づきを共有しました。

アンケートには、皆さんが長文で丁寧に感想を記入してくださいました。記述内容については、後ほど印象的なものをいくつか紹介します。



その後、感想の共有を終え、管理棟の備品を片付けた後、再びバスに乗り込み信太山を後にしました。解散場所で参加者の皆さんと別れを告げ、充実した一日の日程を終えました。



とにかく暑い一日でしたが、作業は木陰の多い林内で行ったため、熱中症になることもなく無事に講座を終えることができました。

皆さん、お疲れ様でした！

■受講生の声 ～環境保全の現場で学んだこと～

受講生アンケートの自由記述から、印象的な感想をいくつかご紹介します。まず多く寄せられたのは、環境保全は人の手によって支えられていることを実感したという声です。

- ・自然を残していくには、ただ人が入らないようにするだけではなく、人の手で管理し、良い形で自然環境を残していかなければならないことを知りました。草刈りや階段づくりを通じて、人が自然を管理する大切さを身をもって学ぶことができました。

- ・こんなに時間と手間をかけて階段をつくり、草を刈っても、それが湿地のほんの一部に過ぎないことを実感しました。環境保全に必要な労力が身に染みて分かり、この体験は今後に役立つと思います。

- ・実際に階段づくりや草刈りを行い、普段利用している自然の中の施設は、多くの人の手によって整備・維持されていることを知ることができました。

また、保全活動が自然と人をつなぐ役割を果たしていることに気付いた受講生も多く見られました。

- ・自然保護だけでなく、多くの人が自然に触れられるようにするための階段づくりも環境保全につながることを学びました。保全するだけでなく、多くの人に自然の大切さを知ってもらうことも重要だと感じました。

- ・草刈りや階段づくりは直接生きものを守る活動ではありませんが、園路を整備し、多くの人が自然に親しめる環境をつくることも環境保全につながるのだと思いました。

実際に体を動かして作業したことで、**達成感や保全活動への理解が深まった**という声も数多く寄せられています。

- ・活動によって完成した階段や草刈り後の園路を見たとき、とても大きな達成感がありました。

- ・自分たちがつくった階段がこれからも長く利用されると思うと感慨深く、現地で長年活動されている方のお話も聞くことができ、有意義な時間となりました。

- ・草刈りや階段づくりも、多くの人が協力すれば短時間で進めることができました。環境保全に携わる人が増えることの大切さを実感しました。

さらに、**信太山丘陵ならではの豊かな自然や生きものとの出会い**も、受講生の心に強く残ったようです。

- ・信太山の生きもの観察がとても面白く、特にコモウセンゴケを見ることができて嬉しかったです。多くの生きものを観察することができ、信太山丘陵の生物多様性の豊かさを実感しました。

- ・市街地のすぐ近くに、このような豊かな自然と多様な生きものが暮らしていることに驚きました。その自然を守ろうと活動されている方々の姿にも感銘を受けました。

このように、実際に保全活動を体験したことで、その大変さや意義を肌で感じることもできたこと、普段何気なく利用している自然環境が多くの人の努力によって支えられていることを知ったこと、そして信太山丘陵の豊かな自然や生物多様性に触れ、その価値を実感できたことなど、本講座ならではの学びが受講生の満足度につながったことがうかがえました。

今回の講座が、環境保全への理解を深めるだけでなく、「自分も自然を守る活動に関わってみたい」という思いを育むきっかけとなればと期待しています。こうした受講生の思いを大切にしながら、今後も実践を通して学べる講座づくりに努めてまいります。